

2017年3月期 第2四半期

(2016年4月～2016年9月)

決算説明資料



高浜油槽所

 **東洋合成工業株式会社**

2016年11月17日 (木)

2017年3月期 第2四半期 決算概要

2017年3月期 第2四半期累計 業績ハイライト

- 売上高は、販売量（+3.9%）は増加したが、急速な円高（△12%）により1.9%の減収
- 利益面では、為替差損の計上、在庫調整費用、及び戦略的機能強化費用等の一過性費用の計上、により、減益
- 期首計画比においても、円高影響を販売量増で吸収できず、計画未達となった

(百万円)	2016.3期 上期実績	2017.3期 期首計画	2017.3期 上期実績	前年同期比		期首計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	8,817	8,900	8,653	△164	△1.9%	△247	△2.8%
営業利益	512	200	110	△401	△78.4%	△90	△45.0%
経常利益	411	100	63	△347	△84.5%	△37	△37.0%
当期純利益	256	60	24	△232	△90.6%	△36	△60.0%
為替レート (売上平均レート)	121円/\$	108円/\$	107円/\$	△14円/\$	△11.9%	△1円/\$	△1%

生産量・販売量は堅調に増加したが、急激な円高と一過性費用の計上により減収減益となった。

売上高：8,653百万円（前期比△164百万円、△1.9%）

- 販売量は増加したものの、急激な円高により対前期比減収。
- 前年同レートの場合 9,059百万円（前期比+242百万円、+2.7%）
- 販売量の対前期比：感光材+2.9%、化成品+3.9%

営業利益：110百万円（前期比△401百万円、△78.4%）

- 円高による売上減少の影響、及び一過性費用（以下）により、減益
 - ・前期末在庫調整費用の計上（前期比+264百万円）
 - ・戦略的機能強化（開発、教育、人材強化施策）の実行（前期比+126百万円）

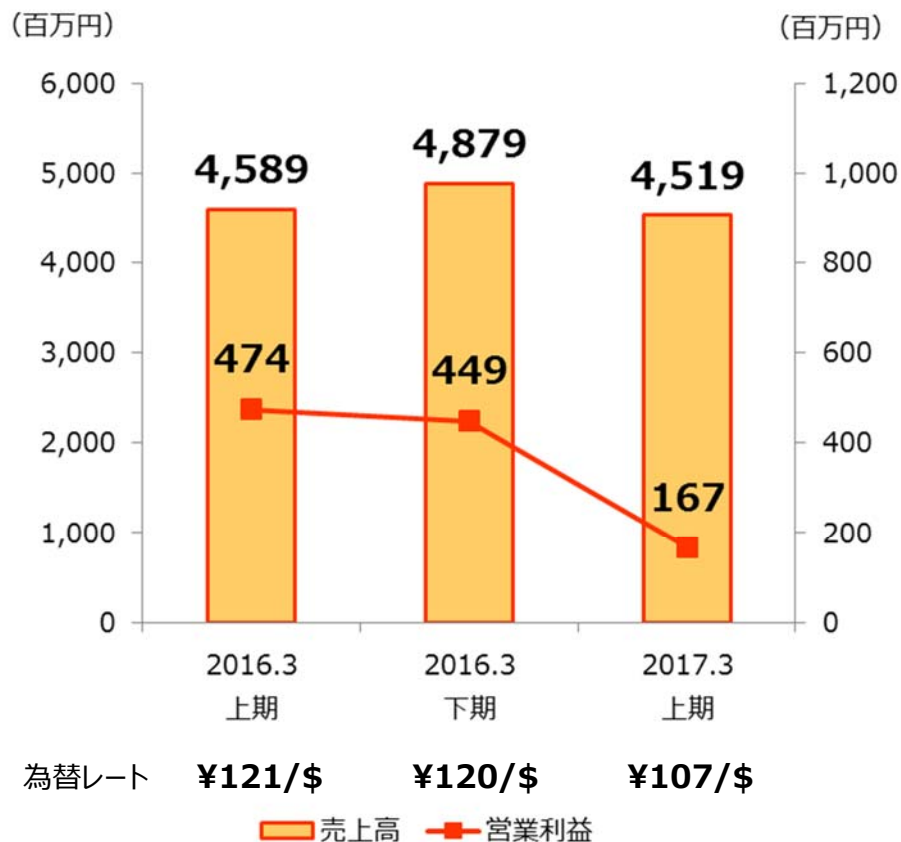
経常利益：63百万円（前期比△347百万円、△84.5%）

- 営業外収入：淡路工場補助金等により187百万円（前期比+148百万円）
- 営業外費用：為替差損132百万円、費用計235百万円（前期比+94百万円）

感光性材料セグメント

半導体、FPD需要が好調に推移、販売量が増加

売上高・営業利益



■ 分野別概況

半導体関連、FPD関連共に好調に推移。
生産量・販売量が増加。

■ 業績概要

販売量は増加（前期比+2.9%）したが、
海外売上の為替影響により減収。
売上高は4,519百万円（前期比△70百万円）
営業利益は167百万円（前期比△306百万円）

■ マーケット

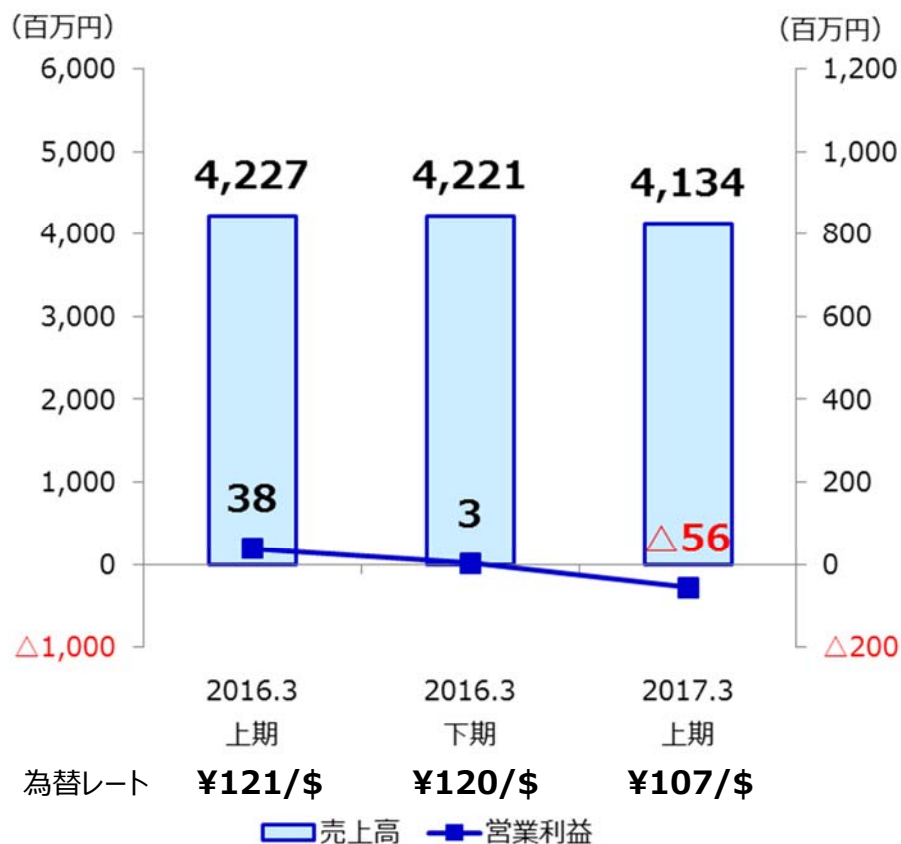
ディスプレイ：FPD関連の需要は堅調。
スマホ、テレビ、車載LCDなど需要拡大。
有機ELパネルの拡大傾向は持続。

半導体：既存感光材分野は、車載用、
LED等の用途拡大、先端品分野は、
メモリー等により需要拡大。
感光材マーケットは、引き続き成長が続く見通し。

化成品セグメント

香料材料、ロジスティック、溶剤、全ての分野で販売量、荷動量が増加したが、海外向け販売が為替影響を受け、減収減益

売上高・営業利益



■ 業績概要

全ての分野で販売量増加（香料・溶剤+3.9%、ロジスティックも増加）

売上高は4,134百万円（前期比△93百万円）

営業利益は△56百万円（前期比△94百万円）

■ 分野別概況

● 香料材料分野

海外主要顧客を中心に販売増も、円高影響により売上高微減

● ロジスティック分野

荷動量は増加
タンク稼働率は、引き続き好調に推移

● 溶剤分野

電子材料向けは堅調に推移
円高による市場価格の下落はあるものの、リサイクル需要も堅調

営業外損益～当期純利益

営業外収支は、補助金収入があったものの、為替差損の計上により、△48百万円
 当期純利益は、前期比△232百万円の24百万円となった

(百万円)	2016.3上期	2017.3上期	増減額
営業利益	512	110	△401
営業外収益	38	187	+148
受取配当金	5	3	△1
補助金収入	0	135	+134
その他	33	49	+15
営業外費用	140	235	△94
支払利息	117	94	△22
為替差損	17	132	+115
その他	5	8	+2
営業外収支計	△102	△48	+54
経常利益	411	63	△347
特別損益	△1	0	+1
法人税等	153	39	△113
当期純利益	256	24	△232

[補助金収入 +134]
 淡路工場補助金の計上

[支払利息 △22]
 金利の低下、有利子負債の減少

[為替差損 +115]
 急速な円高進行により、
 差損増加

貸借対照表

(百万円)	2016.3期末	2017.3上期末	増減額
流動資産	11,111	11,059	△52
現金預金	1,326	1,670	+343
売上債権	3,016	2,589	△427
棚卸資産	6,330	6,310	△19
その他	437	489	+51
固定資産	17,121	17,107	△13
有形固定資産	16,263	16,262	△1
無形固定資産	335	367	+32
投資・その他	522	478	△44
資産合計	28,232	28,166	△66
負債	21,426	21,372	△54
買掛債務	2,100	2,058	△42
有利子負債	15,473	15,306	△167
その他	3,852	4,008	+155
純資産	6,806	6,793	△12
株主資本	6,801	6,785	△15
評価・換算差額等	4	8	+3
負債・純資産合計	28,232	28,166	△66

[売上債権 △427]
一部製品売上の3Qへの時期ズレ、及び円高による売上減少により減少

[有利子負債 △167]
借入金の返済により減少

[自己資本比率]
24.1% (前期末比+0.01%)

キャッシュフロー

	2016.3 上期	2017.3 上期	増減額
営業活動によるCF	1,169	986	△183
税金等調整前純利益	409	63	△346
減価償却費	823	786	△36
売掛債権の増減額（+は減少）	143	427	+284
棚卸資産の増減額（+は減少）	△513	19	+533
仕入債務の増減額（+は増加）	348	△42	△390
その他	△42	△269	△226
投資活動によるCF	△241	△366	△125
フリー・キャッシュフロー	928	620	△308
財務活動によるCF	△845	△255	+589
現金及び現金同等物の増減	83	340	+257
現金及び現金同等物の期末残高	1,057	1,258	+201

[営業CF増減 △183]
利益が346百万円減少したものの、売上時期ズレによる売上債権減少により、183百万円の減少にとどまった。

[その他 △269]
前期分の法人税等支払

[財務CF △255]
有利子負債の返済に充当

2017年3月期

通期業績見通しについて

2017年3月期 通期業績見通し

上期実績、及び為替状況を踏まえ、通期業績見通しの見直しを実施
想定為替レートを¥100/\$に設定

下期は、引き続き販売量の増加が見込まれることから、円高影響の吸収を見込む

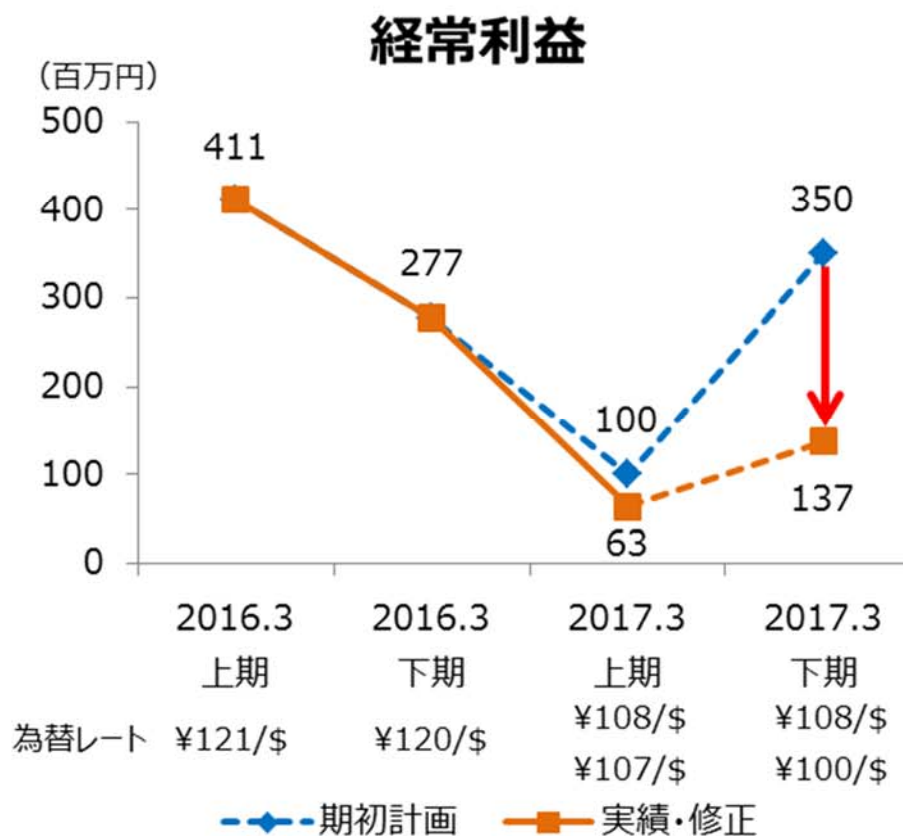
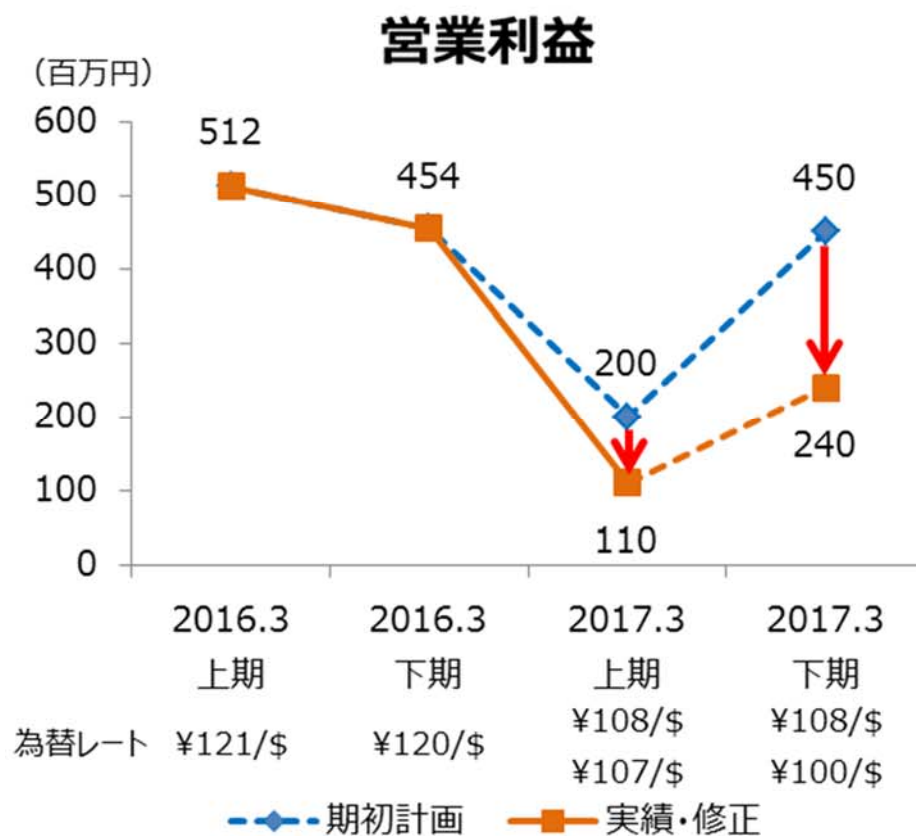
(百万円)	2016.3期 実績	2017.3期 予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	17,919	17,500	△419	△2.3%
営業利益	966	350	△616	△63.8%
経常利益	688	200	△488	△70.9%
当期純利益	468	120	△348	△74.4%
為替レート (売上平均レート)	120.7円/\$	100.0円/\$	△20.7円/\$	△17.1%

※配当については修正なし（1株あたり 中間期5円、通期5円の年間計10円）

2017年3月期 通期業績見通し（従来予想vs修正予想）

2017.3上期実績は、為替が想定より円高で推移したことから、実績も下回った
 下期は想定為替レートを100円/\$と保守的に見積もったため、利益予想も引き下げた
 上期/下期の比較では、売上・利益ともに増加を見込む

※為替感応度：1円/\$の円安で約3,200万円（年間）の利益増（経常利益ベース）



2017年3月期 通期業績見通し（上期実績vs下期予想）

下期は、想定為替レートを100円/\$へ引き下げたが、
上期/下期の比較では増収増益を見込む

(百万円)	2017.3期 上期実績	2017.3期 下期予想	上下期比	
			増減額	増減率
売上高	8,653	8,847	+194	+2.2%
営業利益	110	240	+130	+118.2%
経常利益	63	137	+74	+117.5%
当期純利益	24	96	+72	+300.0%
為替レート (売上平均レート)	107円/\$	100円/\$	△7円/\$	△6.5%

今後の展望について

事業環境認識

成熟した社会、不安定な政治・経済環境により、厳しい事業環境が続いているなか、
素材産業では、機能性化学品、新興国需要へのシフトが続いている

政治・経済

- ✓ 総需要不足
- ✓ 経済の停滞
- ✓ 政治不安定
- ✓ 地政学リスクの増大
- ✓ 災害リスクの増大

社会

- ✓ 充足感の増大
- ✓ 少子高齢化
- ✓ 手堅い消費
- ✓ 安心・安全

超低金利・円高・原油安

イノベーション
による需要喚起

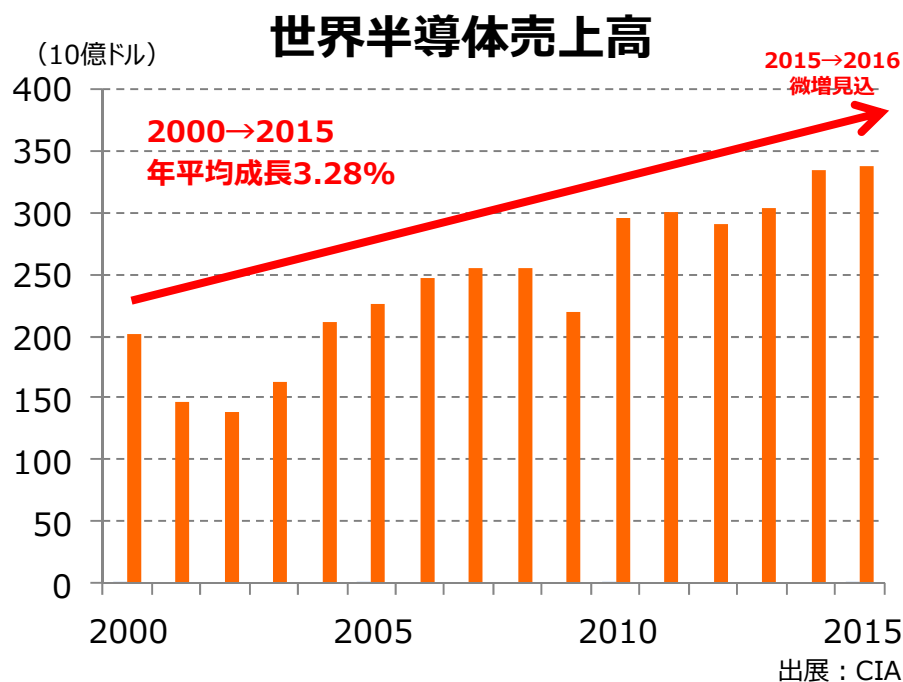
機能性化学品
開発加速・参入増加

新興国の所得拡大
による需要喚起

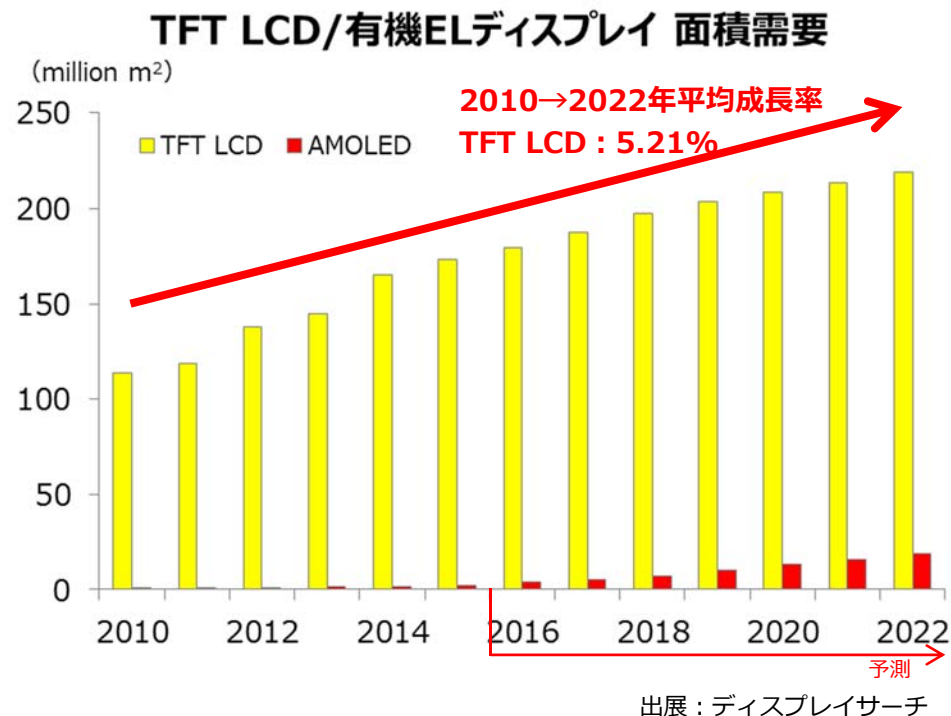
人口増の新興国への
技術移転加速

市場：感光性材料/溶剤 電子材料関連

先端半導体レジスト需要は、ArF世代の延長に伴い拡大。先端品の開発需要も旺盛
 FPD向けレジスト需要は、台湾・中国におけるFPD生産拡大により、成長が続く
 画面の高精細化に伴い、ハイグレードの感光材ニーズが顕著化



世界半導体売上高は、拡大基調は継続。
 先端品 : スマートフォン好調
 g、i線 : IoT、車載半導体、LED、パワーデバイス



スマートフォン、4Kテレビ、車載LCD、LCD広告等で牽引。
 引き続き需要は拡大見込み。

市場：感光性材料

半導体の微細加工技術と多層化が進展し、14nmノードまで量産化が進行

現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階

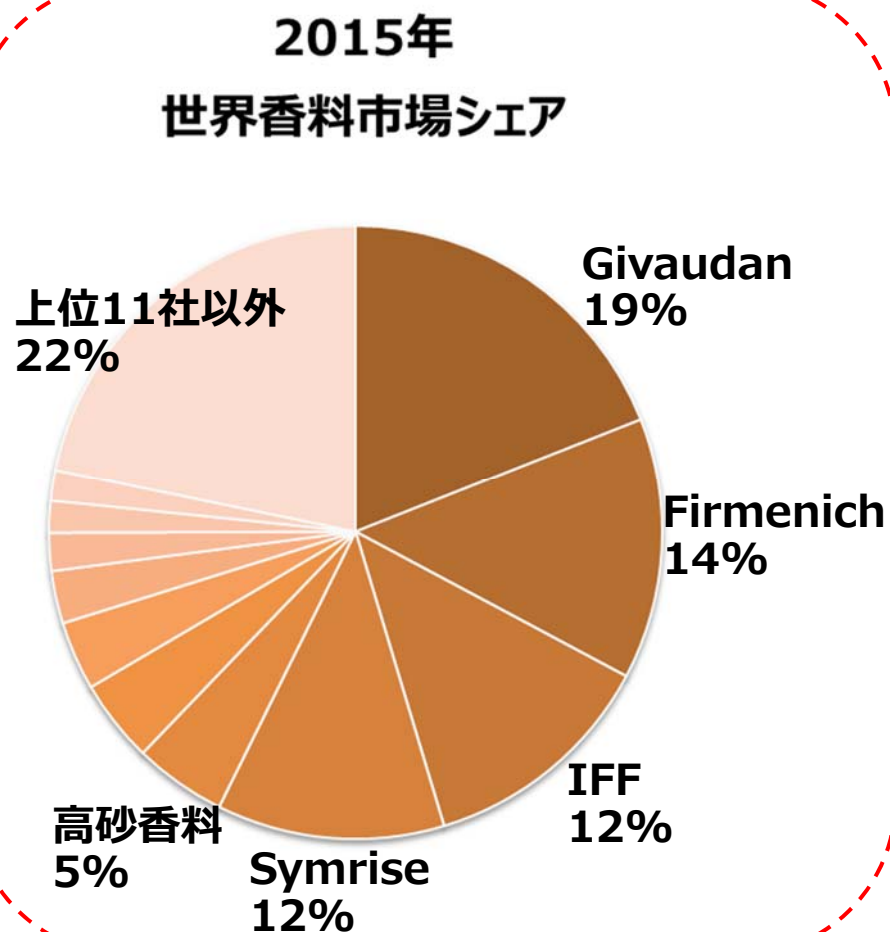
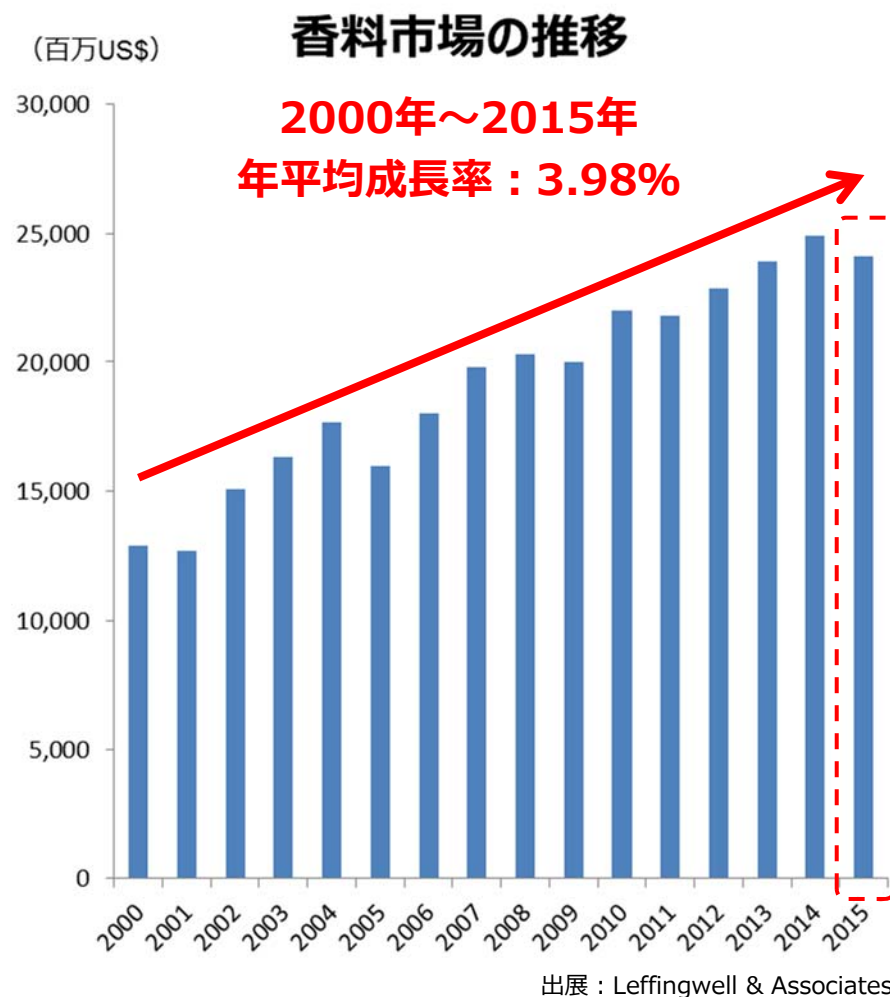
今後も、全世代の感光材の品質向上に対応し、製品ラインナップの更なる拡充を図る

	FPDパネル用		半導体用							
	g+h+i 線	i線	g線	i線	KrF		ArF			EUV
							液浸	ダブル パターニング	マルチプル パターニング	
線幅	~ 2,000nm	~ 1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~5nm	~3nm
用途	テレビ用、 一般用	先端中小型 パネル	IGBT、LCDドライバ、 LED		DRAM / NAND FLASH メモリ					次世代ロジック LSI
市場	新興国の 需要増	スマートフォ ン タブレットに よる拡大	緩やかに縮小	拡大	やや拡大	横ばい	量産化 急拡大			プロトタイプ 露光機 販売中 材料開発中

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

市場：化成品 香料材料分野

香料市場の年平均成長率は3.98%、今後も同水準の成長が続く見通し
世界香料市場は上位5社でシェア62%、当社主要顧客は上位5社が中心



市場：化成品 ロジスティック分野

サービスレベルと顧客満足さらなる向上により、需要確保

外環道開通（平成29年度予定）による関東一円へのアクセスが向上、一段の利便性UPをお客様へ訴求
お客様、運送会社を含めた安全啓蒙活動などを積極的に推進し、当社油槽所の特徴を共有

高い参入障壁と好立地条件

- 東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難
- 東京湾岸に立地、高速出入口にも近接しており好立地と抜群の交通アクセス
- 外環道の開通により利便性がさらに向上

サービスの差別化

- 多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供
- ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み

外環道開通により回転率が一層向上



高浜油槽所（市川）は、平成29年度開通予定の外環道高谷ICに近接しており、開通により一層、顧客の利便性が拡大。

関東近郊への配送時間短縮により、タンク回転率の向上が見込まれる。

新規事業トピックス Cell-able®

Cell-able® は、水溶性感光材技術を応用し製品化。2008年販売開始

2014年10月、世界最大の検査受託機関であるEurofins Panlabs の癌アッセイサービスで採用

2016年5月、Ready to use 3D ヒト肝細胞培養プレート「PXB-able™」の商業用販売開始

Cell-able® TOPIC

2016.11.15

日本化学会主催の第6回CSJ化学フェスタにて、
Cell-able®をバイオマテリアルの視点から紹介する講演を実施

2016.10.13~15

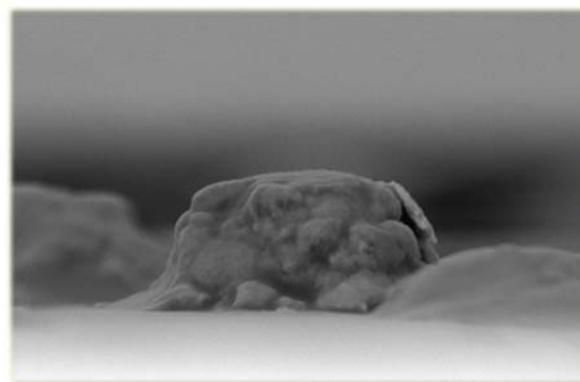
日本血液学会にて、日本医科大学千葉北総病院の
浅野健先生が、Cell-able®を使用した
初代白血病細胞長期培養について発表

2016.10.13~15

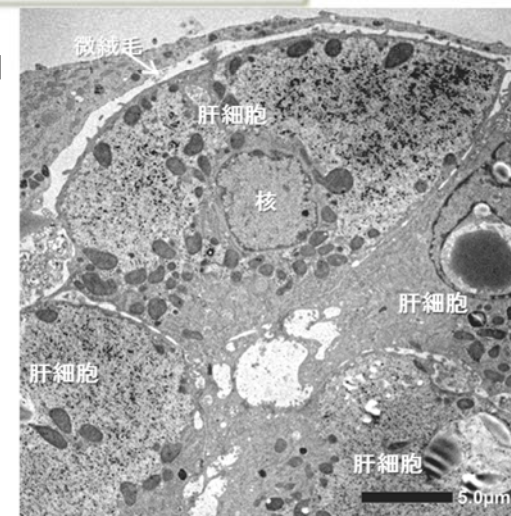
日本薬物動態学会 第31回年会にて、PXB-able™の紹介展示
(株式会社フェニックスバイオ様にて実施)

2016.10.6~8

第75回日本癌学会学術総会にて、Cell-able®を展示発表
(住友ベークライト株式会社様にて実施)



Cell-able®で作製した
キメラマウス由来ヒト肝細胞
スフェロイドSEM写真
(側面)

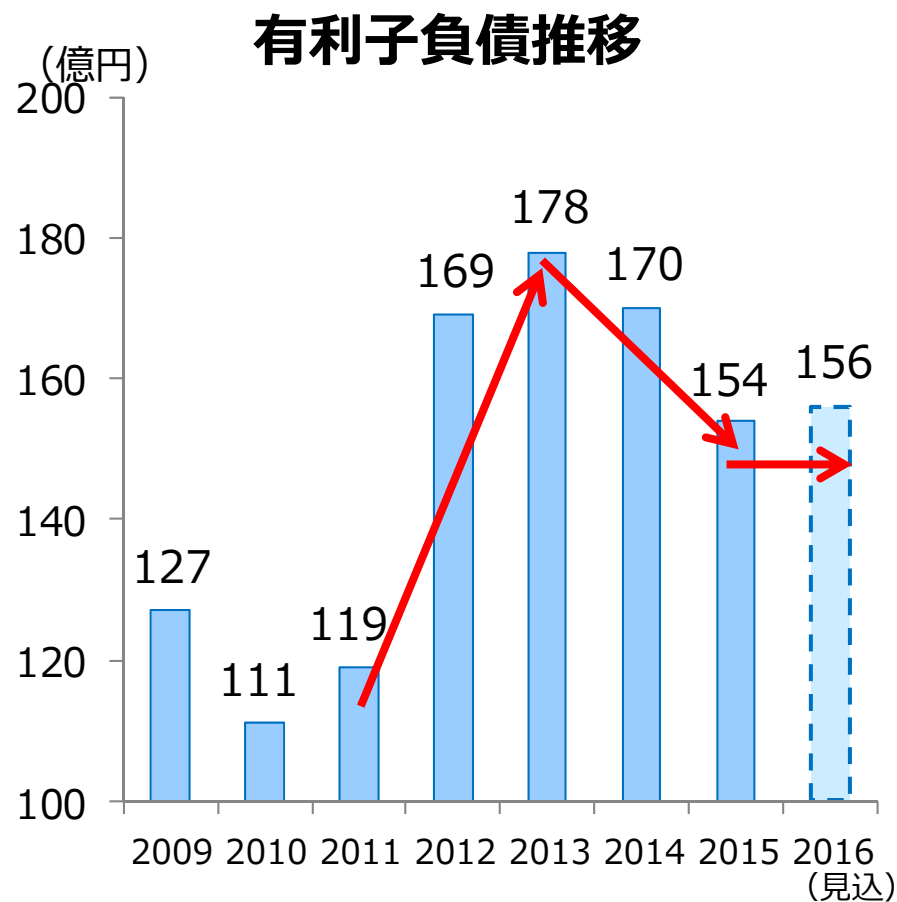


PXB-able™ スフェロイド断面のTEM写真
旭川医科大学 西川祐司教授監修

財務改善

成長投資と並行して財務体質の改善を継続

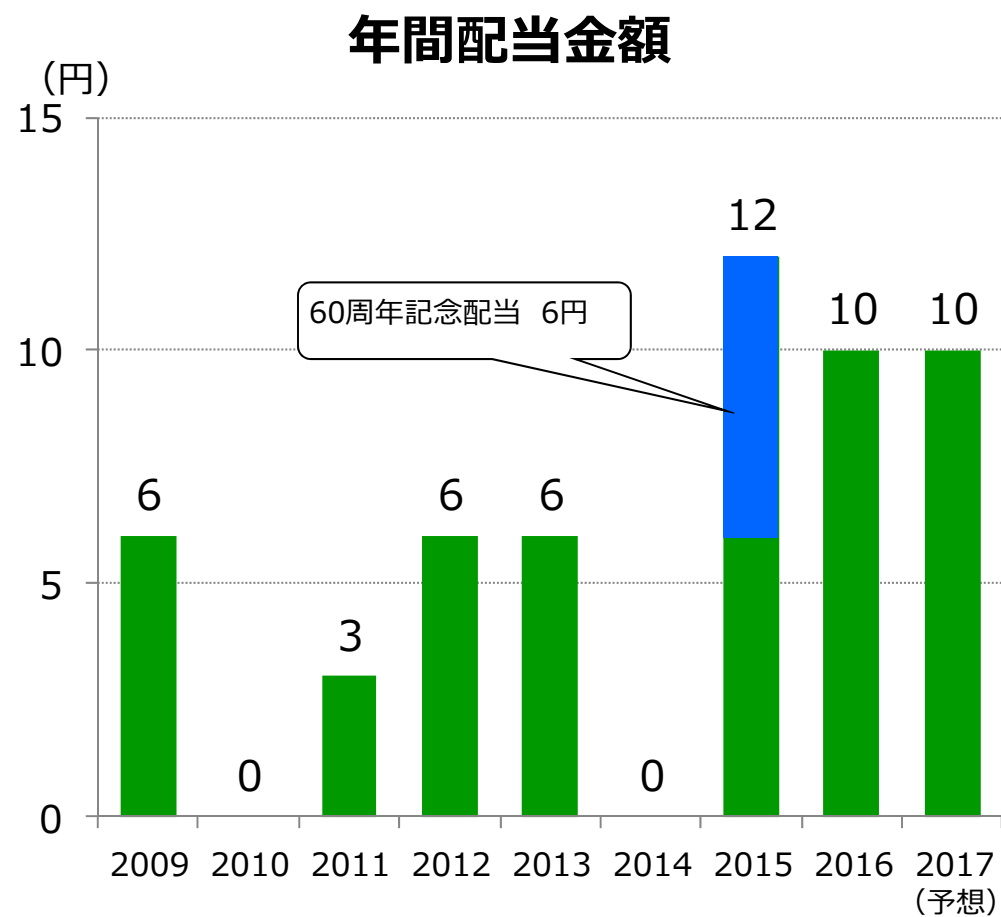
2017.3期は、設備増強、基盤整備に投資したため、前期末水準となる見通し



株主還元

安定配当を基本とする

2017.3期も期初予想から変更無く、1株あたり年間10円の配当の見通し



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。